

# 赤水資料229点を寄贈



長久保赤水の関係資料を寄贈した顕彰会の佐川春久会長（右から4人目）と目録を受け取った大部勝規高萩市長（同5人目）＝同市役所

## 顕彰会、高萩市に

高萩市出身の学者で、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた長久保赤水（1717～1801年）の功績を伝えている赤水顕彰会（佐川春久会長）は、同会が保有する赤水の関係資料229点を市に寄贈した。

下書き、赤水が情報収集した資料、勉強した本など。市が一括して保有することで維持管理が容易になるという。同会によると現在確認されている赤水関連の資料のうち、これまで市が保有していたものと今回寄贈したものを合わせると、同市の

所蔵資料は549点（58・4％）となった。顕彰会は資料の国重要文化財指定を目指している。寄贈式は6月25日、同市役所で行われ、同会からは佐川会長ら8人が出席。大部勝規市長に目録を贈呈した。佐川会長は「資料の他の所有者が、われわれに

続いて市に寄贈してもらえればありがたい」と話した。

大部市長は「寄贈された品々は市歴史民俗資料館に展示するので、多くの人に見てもらいたい。市としても、この地図の素晴らしさを発信していく」と述べた。

（小原瑛平）